

マンスリーレポート

report



report

2006年2月のマンスリーNEWS

■コラム

■春商戦に備えて

いよいよ私達は春商戦に向けての準備段階に入ってきました。毎年なのですが2～3月は冬商品から春商品の切り替えの谷間の時期となってしまいます。そのため、どうしてもホット商材が切れてきます。皆様の自販機でレトルト商材が無くなる場面が多くなってしまふのをお許しください。その分当社ではいち早く新商品のセットをしていく予定です。尚、自販機のオールホットから1箇所ホット（4～5アイテム）への切り替えは3月～4月にかけて行っていく予定です。よろしく願いいたします。

■コラム

■ダイドー・コーヒーについて

先月の1月25日に品川プリンスホテルでダイドーのコーヒー新ブランド「D-1」の記者発表が大々的に行われました。

日本ハムファイターズの新庄選手も来ていました。本当に今回の商品の力の入れようがわかる記者発表だったと感じました。もちろん、この「D-1」も香料なしにこだわっています。ダイドーのコーヒーはいつでも無香料にこだわります。他社メーカーの缶コーヒーの原材料の表示を見てみてください。必ず香料というのがあります。ダイドーはありません。ちなみにダイドーコーヒーの豆は現在ブラジル産を使っているんですが、将来的にベトナム産に変えていこうかという構想があるようです。現在ベトナムは世界第2位のコーヒー原産国になっているんですよ。コロンビアを抜いたそうです。そのベトナム産の豆はほとんどがヨーロッパに輸出されているそうです。品質はとても良いそうです。ダイドーコーヒーの豆がベトナム産になる日は近いのかも・・・

■コラム

■おでん缶・全国自販機で大売れ

■コラム

■ハイパーインフレ・編集者後期

みなさんいかかだったでしょうか？

つたない編集となってしまったかもしれませんが、できるだけわかりやすく要約いたしました。2ヶ月にわたってのハイパーインフレ講演会レポートおつきあいありがとうございます。個人的には「ふう～」とため息がでるような編集でした。

果たして日本にハイパーインフレが来るのか？

それとも・・・？ 私個人的には資産防衛は、外貨で海外の銀行に預けておくのが良いじゃなかと単純に思うのですが・・・いかがなものでしょうか？

■コラム

■アルゴンプラズマ体験記

昨年4月号で花粉症対策でレーザー手術の内容をお知らせすると書いて以来、その後の内容をお知らせしませんでした。大変、すいませんでした。

「喉下過ぎれば暑さ忘れる」じゃないですけど、花粉症のつらさも無くなると、レーザー手術を受けることなどすっかり忘れていました。しか～し！！またその季節がやってまいりました。今年ももう、いつもの花粉症のつらい思いをしない決意でアルゴンプラズマ凝固法にチャレンジしてきました。アルゴンプラズマ！？聞いたことがない方が多いと思います。この治療は、アレルギーにより腫れた鼻粘膜を、アルゴンプラズマで組織の活性を奪い、くしゃみ・鼻水・鼻づまりを抑えるもので、アルゴンプラズマで鼻粘膜を熱的に固め、アレルギーの元となる抗原の侵入を防ぐのです。



皆さん「おでん缶」がブームなの知ってました？

自動販売機で販売しているおでんの缶詰「おでん缶」が、今冬、人気となっている。食品缶詰製造の老舗、天狗（てんぐ）缶詰（伊藤圭一社長、名古屋市中区）が開発、製造した商品で、数年前から東京・秋葉原の電気街でブームに火がつき、全国に広がっている。2006年9月期の販売数は、前期の8倍にあたる240万缶を見込んでいる。天狗缶詰は1923年、うずら卵の缶詰製造会社として創業した。現在はシーフード、野菜、果物など各種缶詰を手がけている。おでん缶は85年、「会社の“出発点”である、うずら卵の需要を増やしたい」と、開発した。317ミリ・リットル缶に、うずら卵をはじめ、コンニャク、昆布、大根などの具が入り、1缶200円（牛すじ入りは250円）。自販機は、高速道路のサービスエリアや街頭など全国に数十台設置されている。名古屋市では、中区大須の第1アメ横ビル内に設置されている。昨年秋に放映されたテレビドラマ「電車男」で、秋葉原のおでん缶自販機が登場して以降、売り上げが急増した。今冬の冷え込みも、販売増につながった。今期の販売数は、昨年未までに100万缶と、前期の30万缶をすでに上回っている。自販機では売り切れが相次ぎ、愛知県豊川市の自社工場の生産だけでは追いつかない状態。このため、今月初めから静岡県の食品会社にも製造を委託し、月間生産数をこれまでの2倍の40万缶に増やして対応している。天狗缶詰は「予想以上のヒット」と驚いており、今年9月には、チクワブやハンペン、ガンモドキ入りの新商品を発売する予定だ。

■コラム

■ハイパーインフレ・その2・対策編

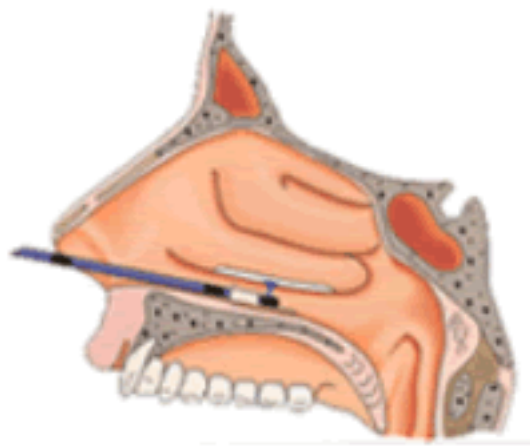
さて、先月号でハイパーインフレになるかもしれない要因を物価や為替の部分から説明していきました。

今月号では、もしハイパーインフレになるとどうなるのか？

またどうすればよいのかを記述することにします。

○日本の大きなインフレ

日本はここ150年の間に大きなインフレを2回経験しています。1回目は1868年の幕府滅亡時です。ペリー来航で貿易ビッグバンが起きました。それまで日本経済は幕府と大阪商人が牛耳っていました。しかしこれによって日本経済は貿易で動かされるようになるのです。この時日本は国内で物を作って売れる状態にはありませんから、日本のお金（金）はどんどん海外へ流出していきます。そのとき幕府は小判の金の含有量を下げます。これは、今のお金をどんどん刷る政府と同じこととなります。もう1回は1945年ごろの戦争直後であります。このとき物価指数は約100倍になっています。ちなみに戦前の為替レートは1ドル4.7円でした。戦後は皆さんもご承知のように



細長いプローブを鼻に挿入し、下鼻甲介という部位にプラズマを吹き付けます。

レーザーとは異なり「面」で治療するため、レーザーより治療時間が少ないと言われています。

さて前置きはこれぐらいにして私の実際の体験ついてです。

1週間前

アレルギーを抑える薬を処方されました。鼻の粘膜が腫れていると痛くてプラズマを吹き付けられないそうです。

当日

まず鼻の中に麻酔をします。脱脂綿のようなものに麻酔薬をひたして鼻の中につっこみます。30分くらい麻酔が浸透するのを待ちます。このとき歯のほうまでしびれてきます。そしてようやくアルゴンプラズマ開始です。わき腹に低周波の電極のようなものを貼られてスタート。吹きかけられる場所によっては、歯や頭に衝撃がありますが強い痛みではありません。焦げた臭いがします。先生はプラズマを吹きかけながらいろいろ話しをしてくれます。かなり余裕の感じ。治療時間は片方5分ぐらいで計10分ぐらいで終了。

帰宅

麻酔がきれてくると、少し痛みを感じてきます。耐えられない痛みではありません。その後血の混じった鼻汁が止まりません。夜は鼻づまりがひどく良く眠れませんでした。

1～2日目

朝起きると鼻がすこし腫れた感じになっている。鼻づまりは依然かなりひどい状態。血交じりの鼻汁は取まった様子。痛みはない。

3日～2週間

最悪なことに、ここで風邪をひいてしまいました。鼻水・鼻づまりが治りません。やばいことになった。この日から約2週間こんな状態が続いてしまいました。風邪さえひかなかつたら、こんなにひどい状況にはならなかったでしょう。

3週間目（現在）

鼻づまりもだいぶ落ち着いてきました。さて今春の花粉症はどうなることやら？この結果はまた追って書いていきます。これから、花粉症の季節に入ってきます。もし興味のある方は受けられていかかでしょうか。ただ花粉症の季節には受けられないそうで受けるのであればベストは秋だそうです。是非参考になさってください。

■コラム

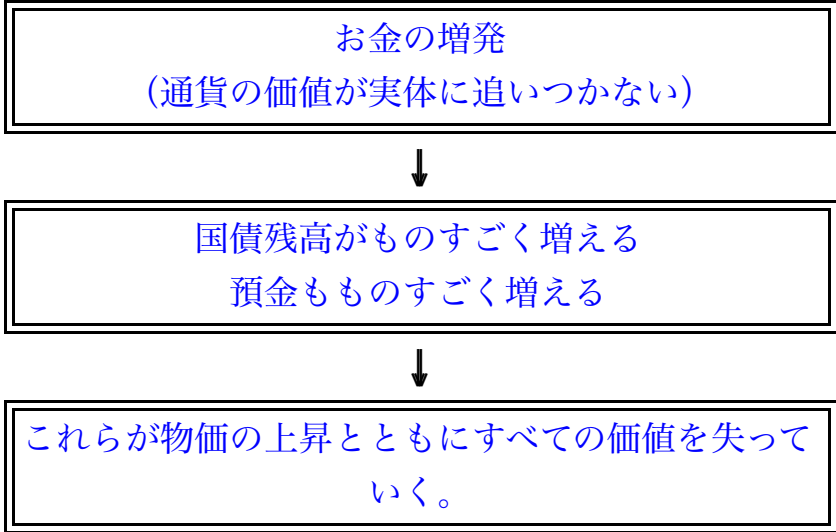
■小田原梅まつり・曾我梅林

1ドル360円となります。約100倍、つまり物価指数からもわかる通り100倍のインフレになっていったのです。つまり大きなインフレがおきる時というのは体制が大きく変わるとき。また通貨の価値が守れなくなると言えるでしょう。国はどんどんお金を刷ります。しかしそのお金自体が実態の価値に追いついていかないのです。



○ハイパーインフレの意味って？

ハイパーインフレっていうのは単純に言うと今までの天文学的に積みあがった債権と債務が完全に相殺されてしまうということです。仕組みとしてはこうです。



こうなることは大変怖いことです。しかしこれも考え方なのです。怖いというのはインフレの時の時間軸にしようとするから怖いのであってハイパーインフレ後の世界に身を投じて新しい事にチャレンジしようと思う人にとっては大きなチャンスとなるのです。

○お金を上手に使う人が勝利する？

ハイパーインフレの意味は上記の通りです。このとき大きな勝負があるのです。それはお金を上手に使う人が勝利するという事なのです。ハイパーインフレは借金も無くなり、資産も無くなるのですから富を産む実力を持った人が一から富を蓄積し始める時なのです。ハイパーインフレが起きたって国が無くなる訳ではありません。資産と負債が1回リセットされるだけです。冒頭の通りお金を上手に使う人が勝つということです。例えば「すばらしい商品を開発する。」「より大きなビジネスをする。」「より意味のあるビジネスをする。」「より利益の高い仕事をする。」などです。つまりハイパーインフレが起きた時はお金の使い方がわからなくなってしまった人が退いて、新しいお金を使う人達が出てくる時と言えるでしょう。権力の交代とも言えるでしょう。

○うまくいった人・いかなかった人

1989年に東ヨーロッパの崩壊が始まり、91年にはいよいよソ連が崩壊します。そして数千パーセントのインフレが起きました。その

本社・小田原営業所の近くには、日本でも有数の梅の名所でもある、曾我梅林があります。曾我梅林は、別所、原、中河原の3つの梅林からなり、霊峰富士と箱根連山を背景に、約3万5千本の梅がいつせいに咲き誇ります。

梅まつり期間中、流鏝馬（やぶさめ）や郷土芸能の小田原ちようちん踊り、寿獅子舞などのイベントが行われます。

梅まつりは、2月1日～2月28日までです。

ちなみに、2月10日現在はちらほら5分咲きぐらいです。

2月20日前後が見所でしょう！



是非、見に来てください！

今月は以上です。また、来月号もご期待下さい。

中でうまくいった人とうまくいかなかった人を見てみましょう。

うまくいった人達

アメリカやヨーロッパの西側と手を組んだ人達。よく考えてみると西側と手を組むというのは共産党時代で考えれば非合法な人であり、不法行為をしている人である。モラルの崩壊は当たり前のことです。この人達はドルを手にし、新しい経済を築いていきました。うまくいかなかった人達年金生活者・教師・公務員・工場労働者つまり「あてがいぶち」の人達で業績にかかわらず給与が変わらない人達ということになります。物価が強烈に上がっているのに、給与が変わらなければ生活が苦しくなるのは当たり前です。

○ハイパーインフレが起きる？さあどうしよう？

まず、資産ですが”金の現物”しかありません。紙はダメです。しかし”金”持っていたってどうしもない。株はインフレになると極めて市場が投機的になります。債券・社債・国債・不動産など金利によって動くものはすべてダメです。やはり一番良いのはお金を使って実力に変えることです。どうやってお金を実力に変えるかです。新しいものを生み出す実力、勇気を持って新しい事にチャレンジしていくことが大切なのです。そこで大切なのは5～10年先のビジョンを持つことなのです。それに向けて物・技術・人などに投資をしていくのです。しかしこれは将来の未来像が無いと出来ません。自分の将来像をどうしたいのかよく考える必要があります。世の中の役に立つことということが消えてなくなる事は決してありません。世の中の役に立つ存在になることが大切です。さらに、付け加えるならその人独自のものであれば素晴らしいことです。役に立つために何を考え行動するのか？ということがとても大切です。ハイパーインフレを唯一抑えこむ方法は出したお金を有効に使い経済を安定させることだけなのです。




「お金を上手にを使って世の中の役に立つ未来の自分を作る」

これが唯一の方法なのです。

■本年度のマンスリーNEWS

	2006.01	アークル マンスリーNEWS
--	---------	--------------------------------

■マンスリーNEWSアーカイブ

	最新	マンスリーNEWSトップページ
	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ